

◆企画名	<u>HSP 講座～繊細さんが自分らしく生きるために～</u>
日 程	<u>2022 年 12 月 14 日 (水) 15 : 00～16 : 10</u>
場 所	<u>千里山キャンパス第 2 学舎 C204 教室</u>
参加者数	<u>21 名 (ピア・サポータ 2 名、研修生 2 名、一般学生 17 名)</u>

目 的

今、5 人に 1 人が HSP (ハイリー・センシティブ・パーソン) = 「人一倍繊細な気質をもって生まれた人」と言われている。HSP は病気だと思っている人が多いが、病気ではなく気質であるため、HSP 気質で悩んでいる方や HSP について知らない方等に正しく知ってもらうことにより、各々の新たな長所や魅力を発見したり、周りにいる繊細な方の気持ちを少しでも理解できる機会にしたりすることを目的とする。

内 容

関西大学文学部教授・心理学研究科長 申崎真志先生を講師に招き、最初に KUSP の司会担当者が挨拶、KUSP の活動紹介と講師の紹介を行なった。次に申崎先生から HSP についてパワーポイントを使いながら 1 時間ほど説明していただいた後、参加者からの質問に答えていただいた。

効 果

事後アンケートの企画満足度を問う選択式の質問では、参加者全員が「満足」以上の評価をつけていた。

また、今回は HSP の当事者だけではなく、HSP ではない人にも「HSP」について正しい認識を持ってもらうことを目的としていたが、当事者ではない人にも参加していただき、企画への満足も得られたことが、講座当日の質疑応答や参加者アンケートの自由記述欄から読み取ることができた。

他にも、アンケートより、参加者にこの講座を受ける前と後で HSP に対する捉え方の変化を与えることができたことも分かった。

改 善 点

今回は、企画当日の運営面で改善すべき点があった。

当日は 4 時限開始の 14 時 40 分より受付を開始し、講座自体は受付開始から 20 分後の 15 時 00 分から行なった。これには第 1 学舎など会場から遠い建物から移動してくる人に対する配慮の意図があったが、実際には 14 時 50 分頃には参加者の大半が会場に到着しており、講座開始までの間、会場に集まっている参加者を長い時間待たせることになってしまった。今後は受付開始から企画開始までに時間の余裕をつくる場合でも、授業の開始と終了時間を意識し、できるだけ参加者を待たせることが無いように工夫していきたい。具体的に今回に当てはめると「14 時 30 分受付開始、14 時 50 分講座開始」が適切と考える。

また、会場での参加者の案内について、実施会場となった教室の入り口にこの企画のポスターなどを貼っていなかったのが、参加者に「この会場で合っているのかな？」と迷わせてしまった。今後はスムーズな誘導の為にもポスターを活用する。

遅れて参加してきた人への対応にも改善の余地がある。今後は、会場の後ろの扉付近に 1 人以上運営メンバーを配置し、席に誘導できるようにする。

講師の方の著書を紹介する際には、口頭だけでは伝わりにくいと感じたので、今後は紹介用のスライドを用意する。

そのほかにも、終了時間が迫っていた為、十分な質疑応答時間が確保できなかった。今後は講座全体のタイムテーブルを設計する段階で、終了時刻に余裕を持たせ、参加者が講師の方に直接質問できる時間を確保するとより企画の満足度向上に繋がると思う。

感想

まず企画準備の面で今回は十分な時間を確保して進めることができた。夏休みの内から企画内容の決定や講師の選定に着手できたことで、役割が誰かに偏ることもなく、何より参加者募集に十分な時間をかけることができた。この流れは今後も維持できるように、見直しをもって進める。

企画当日も参加者自らメモを取りながら話を聞くなど、積極的な参加が見受けられ、参加者にとって価値ある時間にする事ができた。今回、参加者を十分に確保できた一因として、関西大学の学生のニーズに合っていたことが考えられる。今回の参加者アンケートに寄せられた今後の企画に対する要望の全体的な傾向として、人と人との関係や人間心理に関するものが多かった。参加者アンケートの自由記述欄への意見は、学生の声を聞くことができる数少ない機会でもあるので、今後の企画検討の際は参考にすることを忘れないようにしたい。

活動の様子

